

聖書使徒の働き 8 : 26 ~ 40

2020/7/12

「ピリポの宣教」

1. はじめに

- * 「宣教」という言葉からイメージするのは、計画し実行する、そしてその結果を見る。企業の経済活動と同じです。しばしば忘れるのは祈りです。
- ・ ステパノの死によって宣教は地方に広がった。
- ・ サマリアの人々の町には魔術師がいた。彼は人々から「この人こそ大能と呼ばれる、神の力だ」と言われていた。群衆がピリポに関心を持ったのはこの魔術師に驚かされていたからであると記される。魔術師は祈禱師のようなものつまりピリポと同じようなことをしたということです。7 節に「汚れた霊につかれた多くの人たちから、その霊が大声で叫びながら出て行き、中風の人や足の不自由な人が数多く癒されたからである。」魔術師も同じようなことをした。ピリポの方がすごかったのでしょうか。群衆はイエスの御名によってバプテスマを受けていたが、聖霊が下っていなかった。一方魔術師も信じてバプテスマを受けた。しかし彼はペテロとヨハネが手を置くと御霊が与えられるのに驚いた。
- * ピリポはこの話の初めの登場だけです。次の場面への聖霊の導きがありました。26 節：さて、主の使いがピリポに言った。「立って南へ行き、エルサレムからガザに下る道に出なさい。」そこは荒野である。

2. 本文 26~40 節

- * 26 節：さて、主の使いがピリポに言った。「立って南へ行き、エルサレムからガザに下る道に出なさい。」そこは荒野である。
- * 27 節：宦官のエチオピア人がいた。彼は礼拝のためエルサレムに上り、帰る途中であった。
- ・ 34 節：宦官はピリポに向かってこう言った。「預言者はだれについて、こう言っているのですか。」
- ・ 35 節：ピリポは口を開き、この聖句（イザヤ 53 章）から始めて、イエスのことを彼に伝えた。
- ・ 36 節：宦官は言った。「見てください。水があります。私がバプテスマを受けるのに、何か妨げがあるでしょうか。」
- ・ 38 節：ピリポは宦官にバプテスマを授けた。
- ・ 39 節：主の霊がピリポを連れ去られた。宦官はもはやピリポを見ることはなかったが、喜びながら帰って行った。

3. まとめ

- * 宣教はイエスを伝える事であった。そして、私の教会に来てくださいということであった。
- * ヨハネ 14~16 章はイエス様が「助け主」について語られた所です。そして 17 章はイエスが父なる神に感謝のことばです。この次はサンヘドリンによって捕らえられる場面です。その時のことばに次のことばがあります。17 : 21 ~ 23 を要約しますと、
「父よ。すべての人を一つにしてください。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。」主にあって一つですというのはイエスを根拠とする。